

流行ニュース：<鳥インフルエンザ、中国（更新）¹>

2005年12月30日、中国厚生省はH5N1型鳥インフルエンザの新症例を確認した。この症例はFujian南東の地域に住む41歳の女性で12月6日より発熱、肺炎症状を呈し、2日後入院し同21日に死亡した。12月13日この患者から分離されたウイルスは当初の検査でH5N1型陰性であったが、同23日北京の中国疾病管理センターでのPCR法も含めた検査において陽性反応を認めた。厚生省当局は医療監視下に置いた濃厚接触者において症状は認めていない。中国農業省当局は、患者の居住地周辺や仕事場所の近辺からH5型ウイルスのサブタイプを検出することはできておらず調査は現在も進行中である。中国においては6つの省および地域でヒトにおける感染症例が報告されている。参照：¹No. 51/52, 2005, pp433-434

<鳥インフルエンザ、インドネシア（更新）>

2005年12月23日、インドネシア保健省はH5N1型鳥インフルエンザの新症例2例を報告した。1例目は中央ジャカルタの8歳の少年で12月8日に咳嗽と発熱症状を認め同13日入院、同15日死亡した。2例目は東ジャカルタの39歳の男性で12月9日に発熱、頭痛、咳嗽、息切れの症状が出現し同11日入院し翌12日死亡した。2例とも家族および濃厚接触者は監視下におかれ、検査がなされたが感染は認めていない。また感染源は特定されておらず、調査が続けて実施されている。今回の新症例を含めてインドネシアでは16例が報告され、その内11例は致死性であった。参照：¹No. 48/49, 2005, pp. 425-426

今週の話題：

<戦略諮問専門家集団からの提言と結論>

戦略諮問専門家集団（SAGE）は1999年にWHO事務局長によって設置され、予防接種・ワクチン・生物製剤部門（IVB）の業務に関するガイダンスを提供してきた。2005年SAGEの組織と機能についての再評価がなされた。2005年11月9-11日スイスのジュネーブで会議が行われ、SAGEはよりWHOに関連する組織として再構成され、地球規模の予防接種に関する展望と戦略（GIVS）の観点から世界的な予防接種対策と政策を作成した。SAGEはワクチン研究、予防接種供給の進展、子供への予防接種からワクチンによって予防しうるすべての疾患の予防接種への拡張に関する課題を事務局長に報告する予定である。

* 地域における優先事項、主要指針および実施に対する課題：

SAGEは業務内容に関連する重要因子として、各地域における優先事項や業績、今後の課題などの報告を受けた。ワクチン供給量の増加は、国連ミレニアム開発目標を達成するため、現在最も効果的な戦略の一つである。SAGEはまたGIVSに関する基金設立の問題点をよく知る必要性を認識している。また、各国においてワクチン購入予算を維持するための準備を求めているが、このことが一部の地域においては優先事項と受けとめられていないことを憂慮している。SAGEは各国の政治家や大臣に対しワクチン供給の維持の必要性を提言している。

* 予防接種に関する、他の諮問委員会からの報告：

SAGEは予防接種に関して、主要な各種諮問委員会からの報告を受け、これらの委員会の報告を継続的に更新し、また各種委員会の仕事の関連性を明らかにしている。予防接種安全策の優先計画はWHOにおいて現在日常的に必要なものであり、SAGEは予防接種の安全性の継続的な監視とこの重要性をはっきりと述べている。またポリオ根絶諮問委員会（ACPE）の報告も尊重しており、SAGEは一価のポリオウイルスワクチン1型（mOPV1）の開発と認可、更にその使用と効果を提示すると共に、特定地域における野生ポリオウイルスの伝播、流入による集団発生に関して継続的な注意喚起を行っていく予定である。SAGEは今後のポリオ根絶計画を支持しており、ポリオワクチンの不活化や三種混合ワクチンとの混合など新しい開発や、特定地域における予防接種活動を支援している。

* 地球規模での予防接種実施に関する展望と戦略（GIVS）：

ユニセフとWHOは予防接種活動の戦略上重要な4領域の実施に関する戦略的アプローチと課題の概要を提示した。ユニセフとWHOが示した今後4年間の戦略は、GIVSに基づいており、SAGEおよび他の諮問委員会はこの提言を支持している。新ワクチンの導入や一般的なワクチン接種活動の拡大は、国連ミレニアム開発目標の児童生存率を達成するため主要な要素である。GIVSに示されるように、予防接種活動への政治関与は一次医療の統合の要となるサービスの維持や、高い予防接種率に到達するために重要なことであり、SAGEは予防接種のための国際財務機関IFF（IFFIm）での刷新的な資金調達メカニズム推進や、新たな基金設立、予防接種の資金援助者を賞賛した。GIVSの示した原価モデルをSAGEは全面的に支持しており、今後WHOによってこのシステムが確立され更に改善されていくことを期待している。

* パンデミックインフルエンザに対する準備とワクチン：

SAGEはパンデミックインフルエンザワクチンの供給の見通しを更新した。現在、流行期におけるインフルエンザワクチンは世界人口に対して十分量が確保されておらず、製造能力の向上が必要とされている。その一つとして動物用のワクチン製造の手法をヒトのワクチン製造に転換させる事も検討されてい

るが、製造の基準や規則も違うので、この方法に関しては注意深い評価がなされる必要がある。SAGE はパンデミックウイルスの出現からそのウイルスに対するワクチン製造までの期間を短縮するための要点として、パンデミック試薬ライブラリー（全ゲノムを代表するクローン化断片の集合体）の確立、効率的な支援・許認可による使用の迅速化、工業との協働などを示している。現在ブラジルやチリ、ロシア連邦、タイをモデルにして、パンデミック発生時の対策の指導を行っている。

WHO もまた世界保健総会の要求に応じる形でパンデミックインフルエンザに関する準備と対策を継続的に行っている。WHO にはインフルエンザ監視の促進、各国保健省の対処能力の強化への支援、パンデミックワクチンの確保などへの継続支援が求められている。SAGE はアフリカにおいて現在インフルエンザワクチンの製造能力がないことに着目しており、今後各国が準備できるように質の保証されたワクチンの製造メーカーによる現地生産能力の確保とその技術移転を支援する必要性を示している。

今後 WHO において、集団予防接種のための迅速な流通に関して専門家によるインフルエンザ準備計画の包括的な保証と、抗インフルエンザ薬の備蓄と提供に関する検討が必要である。

* ヒト B 型インフルエンザ (Hib) 対策：

SAGE はアフリカおよびアジアにおける B 型インフルエンザによる肺炎と髄膜炎の罹患率および死亡率、現行の B 型インフルエンザワクチンの予防接種対策を検討した。子供の死亡や障害を予防するためのワクチン接種継続に関する主導的立場を取っている GAVI もまた再評価された。B 型インフルエンザワクチンを使用している国では有意に肺炎および髄膜炎の減少を認めており、その効果が示されている。開発途上国における新しい融資の機会として特に GAVI と IFFIm からの融資をより推進していくことが今後必要である。SAGE は B 型インフルエンザワクチンの導入に関して、広範囲の普及と、ワクチンのコストダウンの推進を目的とした新たな枠組みの形成を求めている。

* ロタウイルス対策：

SAGE はロタウイルスワクチンの開発および現行研究の概略を示し、RotaxTM・RotaTeqTM の 2 ワクチンの開発・承認・計画を示した。この 2 つのワクチンは第 3 相試験で腸重積症に関する安全性は確立されているが、市販後の監視結果は批判的であり、南アメリカおよび中央アメリカにおける第 3 相試験の結果では感染予防効果よりむしろ重度の下痢が生じたことを示している。SAGE はいまだロタウイルスワクチンの使用に関する世界的提言をつくる局面には至っていないが、効果研究の継続を求めている。

* ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン：

SAGE は HPV ワクチンおよびヒトパピローマウイルス (HPV) の伝播予防とワクチン導入計画についての情報を更新した。HPV 感染は女性の癌のなかで第 2 位をしめる子宮頸ガンを引き起こし、特に開発途上国においては、女性の罹患する癌の第 1 位となっている。SAGE は最も癌化の多い HPV16 および 18 に対応し、安全性の確立されている 2 つのワクチンを明示した。SAGE は、HPV ワクチンの導入が乳幼児以外の児童期や思春期少年へのワクチン接種という GIVS 目標の一つのモデルとして役立つことを認めた。ユニセフもまたこの計画を強く支持している。計画の推進には強い政治的関与が必要であり、また 2 重価格により途上国へのワクチン導入が可能になったとしても財務支援が重要である。2 回投与法が効果的ならばコストは削減可能であり、他の処方計画に関する新たな情報を SAGE は期待している。

* 肺炎双球菌結合ワクチン：

SAGE は肺炎双球菌結合ワクチンの現在の位置づけ、感染経路別の発生率、GAVI による肺炎球菌ワクチン開発・導入の促進計画 (Pneumo ADIP) に関する概略を示した。ワクチンの予測される必要量、財務課題、製造への支援に関する調査結果は、開発途上国にこのワクチンを導入する以前に克服されるべき主要課題である。肺炎双球菌結合ワクチンの安全性と信頼性はすでに認められている。SAGE は導入経緯の類似している Hib ワクチンと肺炎球菌結合ワクチンの導入推進に関する PneumoADIP と Hib Initiative の協働を提言している。急性呼吸不全が子供の疾病率と死亡率上昇の主要な原因となっていることが明らかになって以来、SAGE は、このワクチンの使用が、国連ミレニアム開発目標の 5 歳以下の死亡率低下に必要であることを示している。

* 最適な予防接種スケジュール：

子供の予防接種活動における最も効果的な計画の選択に関する科学的かつ戦略的な再調査を行うことは、重要かつ時宜を得たものであることを SAGE は認めている。学童期および思春期における保健サービスの一環としての予防接種活動は強く支持されている。拡大予防接種計画 (EPI) 以外の保健予防活動との今後の協働機会はより明確に示される必要がある。これらは例えば、微量元素の投与や抗マラリア薬、駆虫剤および学童あるいは就学前の子供への蚊帳の供給を含んでいる。SAGE は今後、基本的な予防接種の投与計画、追加免疫、また思春期における予防接種などの課題に関して再調査をしていくことの必要性を示している。このことは、疾病管理戦略や免疫学、ワクチン接種のみならず、他の保健ケアサービス戦略の方向性や経済性にも言及するものである。今回の課題に続いて SAGE は、現行の予防接種計画を改訂する将来の提言に必要な、前進すべき作業を明らかにするだろう。

(三谷理恵、田村由美、川又敏男)